

～家族・援助者に求められるもの～

周囲がアルコールや薬を無理にやめさせようとする、依存症の患者は過剰適応の傾向が強いため、見捨てられないように「やめる」決意を口にしたり「止まっている」とうそをついたりしてしまいます。¹⁾ 家族や援助者は、まずは**本人が安心して本音を話せるような関係をつくること**が大切です。叱責や脅しは、本人をますます過剰適応的にし、本音を言わせないようにしてしまうため、逆効果です。

治療の目標は、**アルコールや薬を止めることではなく、人を信じてつながり、正直な関係を築く能力を身につけること**だといいます。¹⁾ これは何年もかかることであり、援助者は気長に支援し見守っていく必要があります。依存症の患者は、困難をなんとか生き抜いてきた人たちです。その苦勞の物語を共有できれば、尊厳をもって本人に接することができると思います。

《参考文献》

1. 小林桜児 著,人を信じられない病 信頼障害としてのアディクション.

